

2012年ロンドン大会におけるフードビジョン策定・実施の体制

組織委員会(LOCOG)によるフードビジョン策定・実施体制の整備

- ・組織委員会は2008年後半に約6ヶ月かけ、スポンサーを含む民間企業、政府関係者、NGOからなるFood Advisory Group (FAG)を設立。
- ・FAGは約12ヶ月かけてフードビジョンを策定(2009年12月公表)。
- ・その後、約18ヶ月かけて、フードビジョンに基づく食糧供給体制・オペレーションを構築。

フードアドバイザリーグループ(FAG)の取組概要

概要		・フードビジョン策定はFAGを中心に検討 ・ステークホルダー(関係者)間の利害調整や合意形成に重要な役割 ・構成は組織委員会、企業(スポンサー含む)、政府関係者、NGOなど ・約12ヶ月かけて持続可能な食料調達を検討し、フードビジョンを策定(2009年12月公表)
主たる検討テーマ		・食料調達における持続可能性とレガシーの定義 ・食料調達におけるリスクと対応策 ・食料調達基準の設定とその実現性の検証 等
役割	組織委員会(LOCOG)	・リーダーでフードビジョン策定の原動力 ・ステークホルダー(関係者)の利害関係調整と合意形成の促進 ・フードビジョン策定に関する最終意思決定者
	企業(スポンサー含む)	・持続可能な食品・食料供給への具体的な課題・施策の評価・アドバイス ・各業界における現状や目指す方向性の検討 ・実現可能性を考慮した調達基準への要求
	政府	・各種規制に関するアドバイザー ・食料調達や公共衛生に係る現状や各種情報の提供
	NGO	・食品安全・衛生、環境保全、アニマルウェルフェア、人権・労働者保護など、各領域における高い持続可能性を提案

フードビジョン策定上の課題

■ 組織委員会のリーダーシップ

- ・関係者の巻き込み
- ・フードビジョン策定のマネジメント(早期FAG立ち上げ、ワーキンググループ組成、ステークホルダーマネジメント等)

■ 目指す水準と実現性のバランス

- ・予算、調達規模、複雑性等の検証と目指す姿・レガシーの構築に向けた実現性ある調達基準の策定

■ ステークホルダーとの調整及び合意形成

- ・NGO等からの高い持続可能性の提案と、サプライチェーン構築主体である民間企業の実現性評価を調整し、統合した調達基準へ落とし込み

2012年ロンドン大会 フードビジョンにおける調達基準の概要

- 選手村・関係機関向け食料は組織委員会の管理で調達を行った。特に食品安全リスクの影響が大きい選手等に対しては、ベンチマーク(義務的)基準に加えてアスピレーショナル(意欲的)基準への準拠も求めた。
- 外国人観光客向け食料は民間企業が調達した。全ての食品・食料調達において調達基準遵守を求めると追加コストが発生し、購入してもらえない可能性があるため、基準への準拠は推奨が妥当とされた(但し、遵法とトレーサビリティの確保は必須)。

概要		ベンチマーク基準(義務的基準、必須)		アスピレーショナル基準(意欲的基準、必須ではない)		
調達基準		レッドトラクター	その他	オーガニック	倫理的取引	その他
農産物	農産物	○	英国グレード1又は2			
	バナナ		フェアトレード	○	○	LEAFマーク認証、フェアトレード認定、レインフォレスト認証、Global GAP又は同等
	茶・コーヒー 砂糖	○	フェアトレード			
酪農	牛乳、クリーム、バター	○	英国産			
	チョコレート	○	フェアトレード又は倫理的調達	○	○	
チーズ		○	国産品は英国牛乳を使用 輸入品はトレーサビリティを担保	○	○	
卵			英国ライオンマーク、フリー規格	○	○	
肉類 (牛、子羊・子牛肉、羊肉等)		○		○	○	
家禽 (鶏、七面鳥、アヒル等)		○	英国ライオンマーク、フリー規格	○	○	RSPCA(王立動物虐待防止協会) フリーダム食品認証、放飼い地鶏
豚肉製品 (豚肉、ハム、ソーセージ等)		○	RSPCA(王立動物虐待防止協会) フリーダム食品認証の豚の利用率制限	○	○	RSPCA(王立動物虐待防止協会) フリーダム食品認証、糞で飼育
魚介類			FAO「責任ある漁業のための行動規範」 に合致したもの(MSC認証含む)		○	多様な種類の貝類利用(海洋資源 影響を加味)、高い福祉基準に基 づく養殖魚、持続可能な餌による 養殖

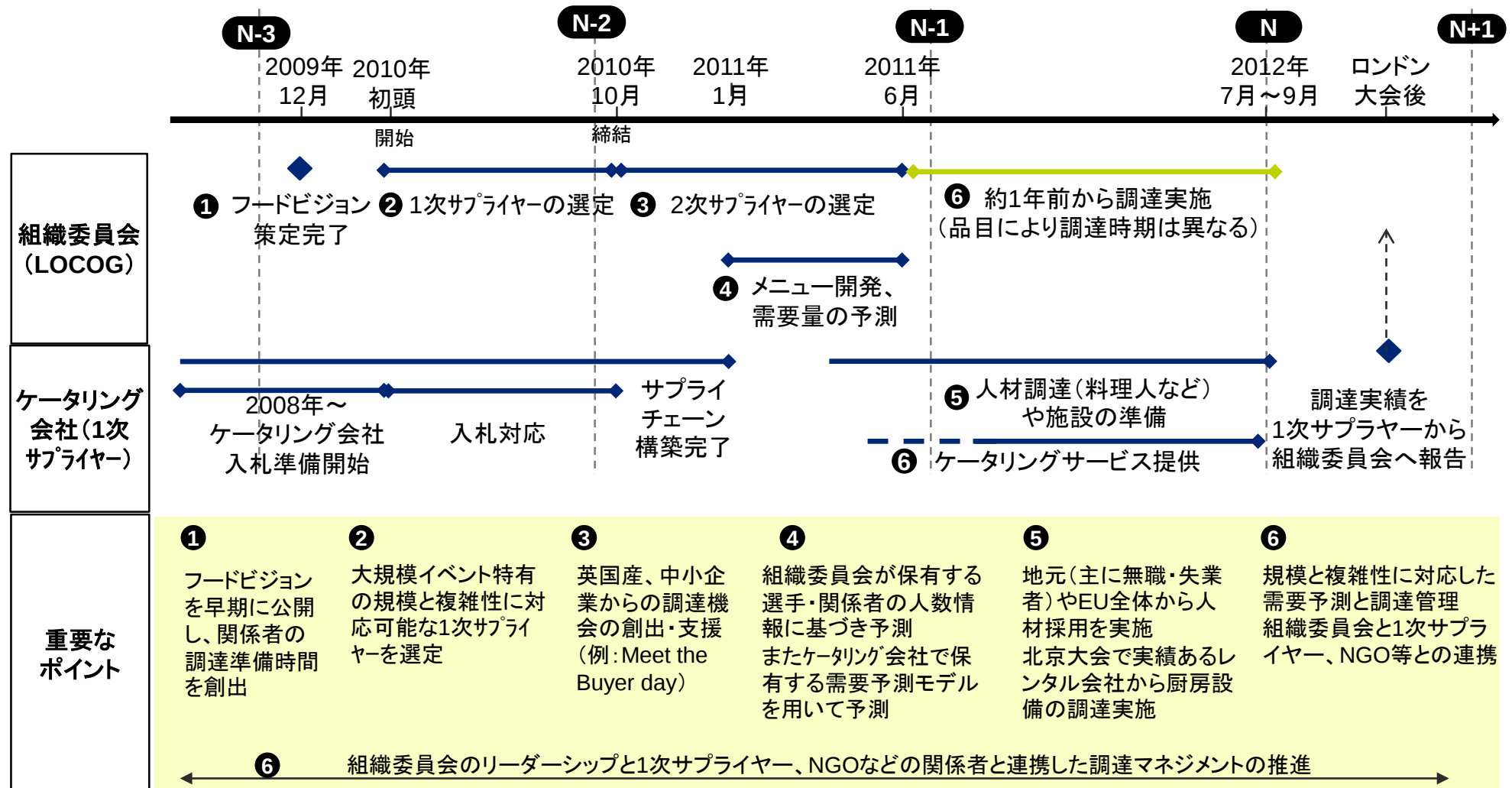
策定時の
実現性
評価

普及しており運用は可能
レッドトラクター及び
ライオンマークは既に

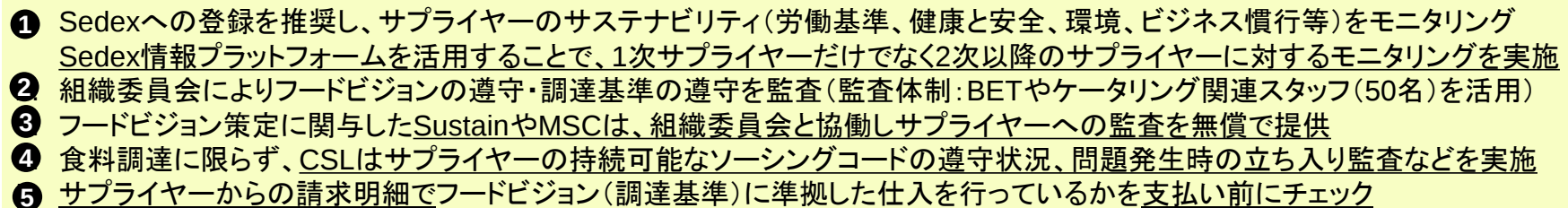
MSCは普及が限定的
なため運用が困難

フードビジョン策定後の食料供給体制の構築とタイムスケジュール

- 組織委員会は、計10数社の大手と中小のケータリング会社とバランスよく契約
- 20万ポンド以上の入札案件はCompeteFor（指名競争入札スキーム）を通じ調達先を選定
- ケータリング会社と綿密に連携し予算内での持続可能性の高いメニュー開発を推奨
- ケータリング会社（一次サプライヤー）とその調達先（二次サプライヤー）とのマッチングイベント（Meet the buyer day）開催
- 組織委員会が直接、卸業者や調達先と価格交渉を実施することもあり



□:フードビジョン策定関与



* 3 CSLはLOCOG30%、ODA30%、英政府20%、ロンドン市交通局10%、ロンドン開発公社10%が出資

レッドトラクターの概要

○ 運営主体

Assured Food Standards (食品基準認証組織)
(NFU: National Farmers Union(全国農民連合)の関連団体)

○ 認証の対象

農場の認証

〔農産物〕(生産から農場内での包装まで)

穀物、青果物

〔畜産物〕(飼養から出荷まで)

牛肉及び羊肉、酪農(牛)、豚肉、家禽



流通・加工の認証

と畜、カット、ケータリング、加工

(牛肉及び羊肉、豚肉、家禽)

○ 認証機関

・以下の6社 総審査員数:約450名

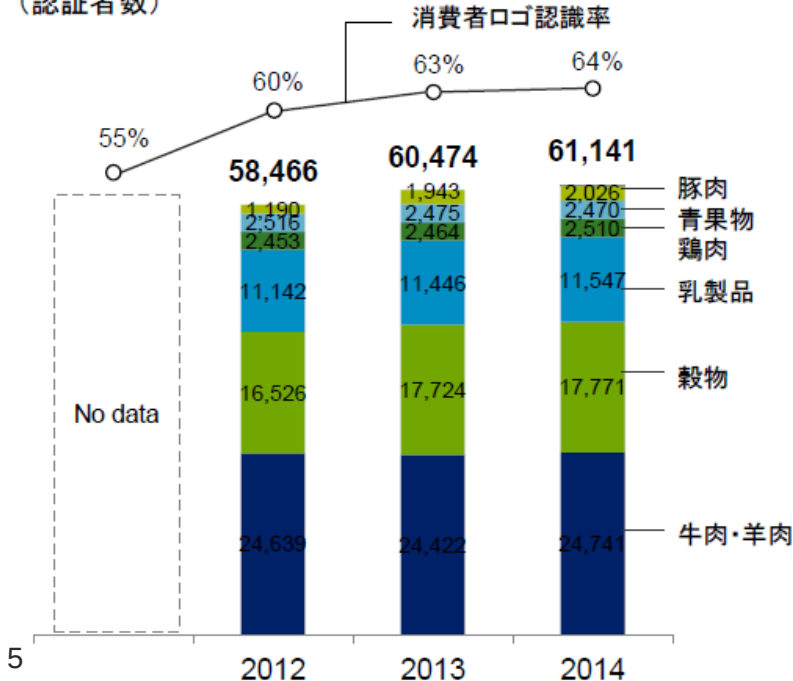


○ 審査

- ・認証費用:約200ポンド(品目や農家の規模で異なる)
- ・審査は1年に1回実施(牛・羊肉、乳製品は1年半に1回の審査実施)
- ・審査の所要時間は半日/1件
- ・GLOBAL G.A.P.のようにグループ認証はない

Red Tractor認証数の推移 一品目別

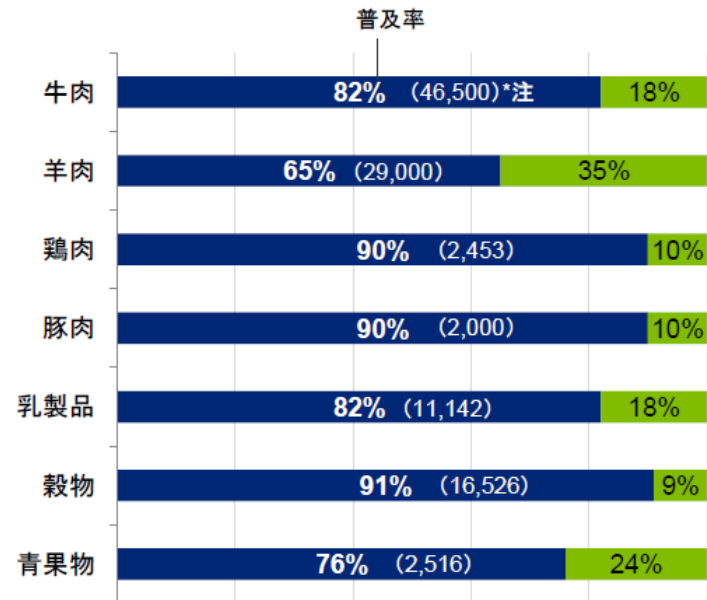
(認証者数)



2012年時点の普及率 ー英国生産全体に占める比率

(%)

(生産者数・事業者数ベースの普及率)



注: include affiliated scheme members and production

レッドトラクター普及の背景

